〈小学校　学級経営〉

望ましい人間関係を育てる学級経営

ーグループ活動の工夫を通してー

糸満市立光洋小学校教諭　　橋　川　由美子

内容要約

最近，少子化・核家族化などの影響で人間関係がますます希薄になってきている。そのため人間関係がうまく作れない児童や友達関係のトラブルを解決できない児童が増えつつある。

グループ活動を工夫し体験させる過程を通して，人間関係がよくなり児童の意欲も出てきた。また教師自ら児童理解に努め，積極的に児童に関わっていくことで児童との信頼関係もできてくるだろう。

【キーワード】人間関係，児童生徒理解，グループ活動，構成的グループエンカウンター

目　　次

Ⅰ　テーマ設定の理由……21

Ⅱ　研究仮説……21

Ⅲ　研究の全体構想図……22

Ⅳ　研究内容……23
　1　学級経営の理論……23
　2　児童理解……23
　3　望ましい人間関係……24
　4　望ましい人間関係をつくるグループ活動……25

Ⅴ　授業実践……27
　1　題材名……27
　2　題材設定の理由……27
　3　本時の指導計画……27
　4　授業の考察……29

Ⅵ　研究の成果と今後の課題……30

＜小学校　学級経営＞

望ましい人間関係を育てる学級経営

ーグループ活動の工夫を通してー

糸満市立光洋小学校教諭　橋　川　由美子

Ⅰ　研究テーマ設定の理由

今学校は，２１世紀を目前にし“生きる力”を児童につけることを目標としている。ものの考え方を身につけ問題解決や探求活動に主体的・創造的に取り組む中で“生きる力”が育まれる。そのためには豊かな人間性が育つような人間関係が土台となる。

学級集団における人間関係には児童相互・教師と児童の二つの側面がある。児童と児童の場合は，自由であたたかい雰囲気の中，あるがままの自分を出し友達も受け入れ誰とでも協力し合って高め合える関係，教師と児童の場合はお互いに親近感をもち信頼し尊敬し合える関係が望ましい。両方の人間関係がうまくいくと学級集団がまとまり，児童は仲間の一員であることを喜び，いろいろな活動に意欲的に取り組み自己実現していくことができる。

しかし，最近は社会環境の変化（少子化・核家族化・地域の人間関係の希薄化）などから様々な問題をかかえている子や人との関わり方がわからない子，下手な子，進んで関わろうとしない子が増えつつある。これまでの学級の児童の実態からも

・自己表現が苦手で友達づくりがうまくできない子
・学級集団に受け入れられない子
・わがままで自分勝手に振る舞い友達と衝突する子
・仲のよい友達以外の子と会話や活動をしたがらない子

等が見られ，人間関係づくりの難しさを痛感した。友達がつくれない子は，学級に居場所がなく孤立し，学校に行きたくないと訴え始めた。また仲のよい友達以外の子と会話や活動をしたがらない子は，グループ学習やチームの活動で生き生きと活動できなかった。担任としてこれまでの実践を振り返ってみると

・どの子とも関わるように努力したが，全ての児童と信頼関係が築けたとは言えない。
・学級経営の中に人間関係づくりの具体的な方針や計画を立てていなかった。

等反省が残り，今後担任として児童との関わり方や学級経営の工夫・改善をしていくことでよりよい人間関係づくりをめざしたい。

学級の児童にとって，生活グループの中で仲間とふれあう場面が一番多く，グループは人間関係の基盤と言える。グループ活動の指導計画を立て，見通しをもって取り組ませたい。グループ活動を多く経験することによって，児童は自分の思いや考えを表現しお互いを理解する。そして自分の役割を果たし仲間と協力しやり遂げる中で，責任感・所属感・成就感を味わう。その中で望ましい人間関係が生まれ，その成果が学級全体に生かされるだろう。児童の発達段階や実態を踏まえ，学級経営を見直し，児童が生き生きとグループ活動ができるように支援していきたい。一方，担任として児童一人一人を理解し積極的に関わり明るく信頼しあえる人間関係を築いていきたい。

そこで，グループ活動を通して児童が生き生きと活動することにより，望ましい人間関係が育つであろうと考え，本テーマを設定した。

Ⅱ　研究仮説

1．生活グループの中にグループ活動を多く取り入れ，考えや思いを表現する場面を多くもたせ、グループの一員としての自覚や協力することの大切さを味わわせることによって，望ましい人間関係が育つであろう。
2．心理テストの分析や理論研究により，児童の理解に努め，担任としての児童への関わり方を工夫し実践すれば，児童との人間関係が深まるであろう。

Ⅲ　研究の全体構想図

教育基本法
学校教育法
新学習指導要領

本校の教育目標

◎　健康で明るい子
◎　思いやりがあり素直な子
◎　めあてをもって学習する子
◎　粘り強くやりぬく子

児童の実態
地域の実態
教師の願い
地域の願い
父母の願い

学級経営の反省

《研究テーマ》

望ましい人間関係を育てる学級経営

ーグループ活動の工夫を通してー

【研究仮設】

1　生活グループの中にグループ活動を多く取り入れ，考えや思いを表現する場面を多くもたせ，グループの一員としての自覚や協力することの大切さを味わわせることによって，望ましい人間関係が育つであろう。

2　心理テストの分析や理論研究により，児童の理解に努め，担任としての児童への関わり方を工夫し実践すれば，児童との人間関係が深まるであろう。

研究内容

1　学級経営の理論
2　児童理解の方法
3　望ましい人間関係づくり
4　グループ活動の工夫

授業実践と考察

望ましい人間関係の学級

Ⅳ　研究内容

1　学級経営の理論

(1)　学級経営とは

『学級経営の研究とその実践』（松村謙・西村文男編著）によると「学級経営とは，学級という単位組織を通して，子供一人一人の個性を伸ばし，調和と統一のとれた人間形成を行う営み」と記されている。

学習と生活の場である学級が一人一人の子供にとって心の居場所になり，温かい人間関係の中で心豊かに育つような学級経営をしていきたい。

(2)　領域・内容

学級経営の領域と内容を次の７つに分類し、まとめた。

学級経営

①環境構成・・・・・物的環境と人的環境（学級の雰囲気、教師の人間性）を整備
②児童理解・・・・・子供の特性・良さ・可能性・人間関係・問題などを理解
③学習指導・・・・・教科・道徳・特別活動・総合的な学習など全ての学習に関わる指導
④生活指導・・・・・基本的行動様式の指導，集団生活に関するしつけ，心の育成
⑤グループ指導・・・係り活動・当番活動・生活班・委員会・クラブなど学級・学校の小グループの指導
⑥学級事務・・・・・学級経営案・学習指導計画・週案・指導要録・通知表などの作成
⑦家庭との連絡・・・教師と父母との連絡を密に取り合い，信頼関係の強化

2　児童理解

(1)　児童理解の方法

児童は日々成長し変容していく。そのため教師は，一人一人の児童を理解するよう常に努力しなければならない。児童理解のねらいには個性の伸長と問題行動の早期発見の二つが上げられるが児童の抱えている問題の中には人間関係に関する問題が多い。児童一人一人を理解しながら人間関係も作っていく姿勢で，下記７つの具体的な手だてを考えた。

①行動観察……授業中，休み時間，放課後など全ての生活の様子から，その児童の言動や教師や他の児童へどう対応しているか観察する。
②日記や作文……児童の日頃の言動・思い・友達関係を知り理解を深める。共感や励ましのメッセージを入れる。見つけた良さは，学級で紹介したり学級通信で知らせたりする。
③グループノート…毎日読み，教師の感想を書き心の交流を図る。グループのよいところをほめ，問題があればグループで解決できるよう援助する。
④アンケート……友達についてのアンケートを実施して友達関係を把握し，孤立児を支援したりグループづくりの資料にしたりする。
⑤保護者会……新学期には我が子のよいところ紹介，学期末には我が子が頑張ったことを全員に発表してもらい，学校では気づかない一人一人の良さを知る機会にする。
⑥各種心理テスト…ＰＵＰＩＬ，ＰＯＥＭ，Ｑ－Ｕアンケートなど目的に応じて実施する。
⑦構成的グループエンカウンター……他児理解や自己理解のエクササイズを実施して児童一人一人の個性や良さを知る。

(2)　個人カードの活用

上記の方法で知った事をすぐに記録する習慣をつけておく。カードは身近に置き，いつでも見たり書き込んだできるようにしておく。日頃から児童との人間関係を振り返ることができるような「教師との人間関係」の欄を作り，児童との関わり方に気を配っていきたい。

個人カード　　1学期　　名前〔　　〕

<table>
<tr><td colspan="2">学級の友達</td><td colspan="3">教師との人間関係</td><td>最新の情報</td><td>長所・頑張り</td><td>本人の目標</td></tr>
<tr><td rowspan="3">名前</td><td rowspan="3"></td><td>A</td><td>B</td><td>C</td><td rowspan="5"></td><td rowspan="5"></td><td rowspan="3"></td></tr>
<tr><td>よい</td><td>普通</td><td>少ない</td></tr>
<tr><td colspan="3">関わり方</td></tr>
<tr><td colspan="2">A</td><td>B</td><td>C</td><td rowspan="3"></td><td>教師の課題</td></tr>
<tr><td colspan="2">社交的</td><td>普通</td><td>孤立</td><td></td></tr>
<tr><td>行動観察</td><td colspan="7"></td></tr>
</table>

3　望ましい人間関係

(1)　子供たちは、今

最近，少子化・核家族化・地域の結びつきの弱さなどから遊び集団がなくなり，人間関係が希薄になってきている。そのため子供達は，友達がうまく作れなかったり，友達とのトラブルをうまく解決できなかったりして，グループや学級に馴染めず孤立してしまうことがある。

また，一度仲良しグループができると一緒に行動する事で安心し，グループから仲間はずれにされることをおそれ，他の子を排斥したりひどい場合はいじめたりする行動をとる。それは，小さい頃から人間関係作り（特に友達作り）の経験が少ないからである。一人一人の子供が自分というものをしっかりもってないこと，自主性が育ってないこと，友達の存在を十分認めていないことなどが原因と考えられる。

(2)　児童相互の望ましい人間関係とは

児童相互の望ましい人間関係は**「協力できる関係」**と考えた。協力するには，自分の思いや考えを相手に伝え合い，理解し合わなければならない。そして自分の役割や仕事を責任をもってやり，苦しい時は助け合い，励まし合う。そしてやり遂げた時，みんなで喜び合い，仲間の一員であることを自覚する。だから，強い子が自分勝手に振る舞ってもよくないし，まったく同じ事を皆がやってもよいとは言えない。知恵合わせ，心合わせ，力合わせをしながら個が生かされるのが望ましい。

この「協力できる関係」を体験するには，グループ活動の場が最も適している。グループ活動を通して育った人間関係が自然と学級全体に広がり，まとまった学級集団へとなっていく。

(3)　教師と児童の望ましい人間関係とは

教師と児童の望ましい人間関係は**「信頼関係」**ととらえた。教師が児童を信頼するということは，信頼と希望の目で相手を見てあげる事である。児童の力を信じ，前向きな行動をするであろうと希望を持って見守り励まし続ける事である。「先生は自分を見てくれている。」「自分の気持ちを分かってくれている」と児童が感じてくれることが大切である。

信頼関係とは，両方が深く関わり合うことによって生まれてくるものである。教師は，相手が自分をどう思うかにとらわれず一人の人間としてまっすぐに向き合い，自分の心も開き語り合う姿勢をもつことが大切である。しっかり関わり合うことによって生まれた「信頼」は，人間の成長の全ての基盤である。信頼する，信頼される関係は，お互いが自信をもつことにつながり，それに応えようとしてさらに意欲的に活動するようになる。

(4)　人間関係をつくるには

教師は，児童に心を開き児童との人間関係が深まるよう次のような手だての工夫をしていきたい。

① 休み時間や放課後には，児童やグループの遊びやおしゃべりに積極的に加わり交流する。

② 学級担任の自分紹介を機会あるごとに話して聞かせたり，学級通信で知らせたりする。
(例えば生い立ち，小学校時代の思い出．家族，趣味，愛読書，関心事など)

③ 1日交替で各グループを回り給食を一緒に食べたり，係や当番の活動を共にし，一緒に汗を流す。

4 望ましい人間関係をつくるグループ活動

(1) グループ活動のねらい

楽しいグループ活動をより多く体験させることを通して，協力することの大切さやみんなでやり遂げる喜びを味わわせ，人間関係を育てる。

(2) 良い人間関係をつくるグループ作り

学級内のグループには，係活動，給食，生活におけるグループがあげられるが，本研究では生活グループをとりあげて考えた。生活グループは座席で決め、人数は4，5人が望ましい。より良い人間関係を作るには，リーダー性のある子，友達作りの苦手な子などを含むグループがよい。グループ作りの大切さを十分理解させた上で，話し合って決めることが基本である。その後で児童の実態に合わせて，自分たちでグループ作りができるよう主体性を育てる必要がある。

(3) 楽しいグループ活動の工夫

人間関係をグループの中で育てるためには，様々な活動を生活の中に意図的に取り入れ，楽しく協力する場面をより多くつくる必要があると考え，グループ活動を下記のように工夫してみた。

① **グループ縄跳び**

人間関係は遊びを通しても作られやすい。縄跳びをグループ遊びとして位置づけ一年間継続する。縄跳びは活発な3年生の児童に適した遊びである。またグループでの練習が容易で友達同士の教え合いができる。3学期には全員学級長縄を跳んだりくぐったりできるようにしたい。

グループ活動の実践計画

項目	内容		
ねらい	グループの仲間意識を育てるとともに，学級全体の仲間意識へと広げる		
い つ	毎月8日（8は長縄8の字回旋をイメージして取った。）		
活動時間	学級活動・体育・昼休み・朝の会などの時間を工夫して使う。		
どこで	校庭・運動場・体育館など		
活 動	学期	めあて	種目
	1	縄跳びに慣れる	短縄 ・一人で跳ぶ ⇒ 前回し・後ろ回し・あや跳び・交差跳び ・二人で跳ぶ ⇒ 向かい跳び・横並び跳び・二人跳び
	2	グループで楽しむ	グループ長縄 ・大波小波 ⇒ 縄跳びの遊び歌に合わせて ・回旋跳び ⇒ 跳ぶ回数を決めて・二人組で跳ぶ ・くぐり抜け ⇒ 8の字くぐり抜け・二人組でくぐる
	3	学級で楽しむ	学級長縄（縄の長さ6m） ・8の字回旋跳び ⇒ 間をあけないで跳ぶ 出入りの仕方（順回旋・逆回旋で） ・8の字くぐり抜け ⇒ 間をあけないで跳ぶ
備 考	＊望ましい人間関係を作る工夫として，失敗した子が縄を回すというこれまでのルールを改め，全員が交替して回す役をする。 ＊縄跳びの苦手な子がいる場合は，負担にならないよう配慮する。 ＊学年の終わりには頑張り賞を与え，賞賛する。		

② **グループ遊び**

週に１回，昼休みの体育館使用日にグループで遊ぶ日を設定する。グループの中の遊びのリーダーが中心になって活動する。

〔 種 類 〕

縄跳び，ドッジボール，竹馬，バランスウォーカー，フラフープ，鬼ごっこ，ハンドベースボール，フットベースボール，陣取り，トランプ，折り紙，紙飛行機とばし，なぞなぞなど

③ **構成的グループエンカウンターの導入**

構成的グループエンカウンターは，児童相互や教師と児童のふれあいを深める集団学習体験である。望ましい人間関係を育てる上でたいへん効果的である。そこでグループの人間関係作りを意図したエクササイズを機会あるごとに取り入れていく。学級活動の時間はもちろん，教科と関連した導入も工夫し積極的に取り入れていく。

(4) 関連した取り組み

① **グループノートの活用**（資料１）

グループノートを作り，交換日記の要領で毎日一人ずつ書かせた。（６月から）

ねらい……グループの人間関係を作り，深める。一人一人の思いを書くことで友達の良さに気づき、グループの大切さを感じる。

書く内容……グループの友達のいいところや頑張ったこと楽しかったこと反省など何でもよい。

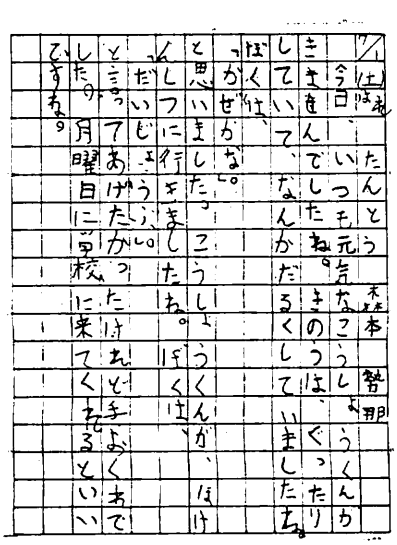
書く時間……いつでもよい。家に持ち帰って書いてきてもよい。朝提出する。

教師の支援……できるだけ毎日目を通し，よい点はその日でほめたり声かけをする。問題があれば早めに対処する。朱書きで教師の賞賛の感想も書き添える。誤字や脱字などにはこだわらない。

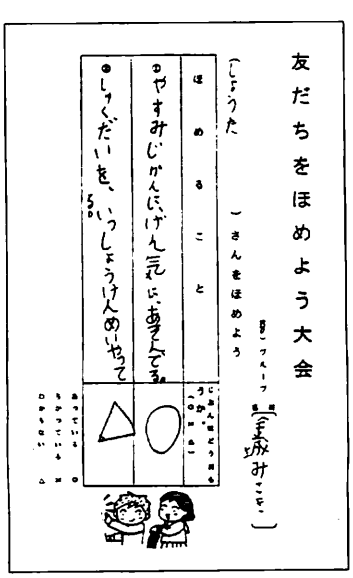
② **グループの友だちをほめよう大会**

構成的グループエンカウンターの一つである「友だちをほめよう大会」を実践した。これはグループ活動を通してお互いがよくわかってきた時期に実施すると効果的である。

方法……グループの友達一人一人に用紙（資料２）を配り，それぞれ友達のよいところを二つ見つけて書いてもらう。書けたら用紙を本人に渡す。もらったら自己判断して自分に合っているか点検する。合っていた中から一つだけ選んで学級で発表する。その後教師がカード（資料３）に書き，保護者会で父母に手渡したり，教室に掲示したりする。



資料１　グループノート



資料２

資料３

Ⅴ　授業実践

1　題材名　『　お誕生日のケーキを作ろう　』

2　題材設定の理由

(1)　教材観

「お誕生日のケーキを作ろう」は，構成的グループエンカウンターのエクササイズ「共同粘土」をアレンジしたものである。教科の図工と組み合わされ，教科学習と人間関係づくりがセットされている。グループで共同で作る活動を通してチームワークの大切さや所属感・成就感を味わうことができるだろう。また３年生の児童は粘土遊びが大好きである。一人で作るのも楽しいが，グループみんなで協力して作るともっと楽しく取り組むことができるであろうと考えた。

(2)　児童観（省略）

(3)　指導観

新学期がスタートして３ヶ月。学級の友だちの名前を覚え一人一人どんな子か少しわかってきた時期である。５月末のグループ編成時はあまり話せなかった児童も，日々のさまざまなグループ学習やグループ活動の中で親しさを増し，仲良く話したり助け合ったり時にはけんかをしたりする姿が見られるようになってきた。

本題材「お誕生日ケーキを作ろう」では，共同制作なのでグループ成員どうしの意思疎通が必要である。本時の授業では敢えて言葉を使わないという制限をすることで，グループの活動はさらに楽しく効果的になるであろう。児童は目で合図し合ったり身振り手振りを工夫してお互いの思いや気持ちを伝えたり感じ取ったりするであろう。この活動を通して，みんなで作る楽しさを味わうと共にグループの一員としての自覚やチームワークの大切さに気づかせたい。そして児童相互の人間関係を育てていきたい。

3　本時の指導計画

(1)　題材名　　『お誕生日のケーキを作ろう』

(2)　本時の指導目標

①　グループで協力して作品を仕上げる喜びを味わう。

②　相手の気持ちを感じ取ったり，自分の気持ちを伝えたりする大切さに気づく。

(3)　授業の仮説

言葉を使わずに気持ちを伝え合う体験をすることによって共同で作品を作る喜びを味わい，協力することの大切さを感じるだろう。

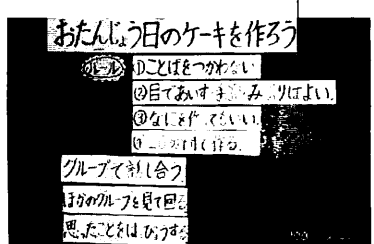
(4)　準備するもの　　児童……粘土，へら　　教師……植木鉢の受け皿８個（ケーキ用）

(5)　指導計画

月日	活動内容	活動時間	教師の支援
6/2～	グループノートの活用	いつでも	・目を通しコメントを入れ意欲づけをする。
6/2	「4·5·6月生まれのお誕生会の計画を立てよう」（計画委員会）	放課後	・話し合いの進め方を知らせる。 ・話し合いの小柱を立てさせる。 ・役割を分担させる。
6/7	「お誕生会の相談をしよう」	学級活動	・司会や発表者がつまずいた時援助する。 ・グループごとに係を分担させ意欲をもたせる。
6/12～13	グループでお誕生会の相談や準備をする。	昼休み	・各グループの活動状況を把握し，頑張ったことや工夫したことを認め励ます。 ・取り組みの遅いグループにアドバイスする。
6/15	「お誕生会をしよう」	学級活動	・各係の活動でつまずいた時援助する。 ・グループで協力して頑張ったことを認め，次の活動への意欲づけをする。

6/19	「グループ対抗ゲームをしよう」 ・ 聖徳太子ゲーム ・ クリスマスツリー ・ 花火おにごっこ	体育の時間	・グループで協力する大切さを味わわせる。
6/28	「友だちをほめよう大会をしよう」	学級活動	・グループの友だちのいいところを認め次の活動への意欲付けをする。
6/30 (本時)	「おたん生日のケーキを作ろう」	学級活動	・うまく作れない子や進まないグループに助言する。 ・グループの頑張りを認め7月のグループ活動の意欲づけをする。

(6) 展開の実際

時間	学習活動	教師の支援	評価
インストラクション 10分	**グループでウォーミングアップ** ・ゲーム「ご指名です」 **学習のめあてを知る。** **ルールを確認する。** ・言葉を使わない。 ・合図・身振り・手振りはよい。 ・何を作ってもよい。 ・20分で仕上げる。 **今日の授業の流れを話す。**	★めあてやルールを書いたカードを黒板に貼る。  	
エクササイズ 20分	**グループでおたん生ケーキを作る。** 	★うまく作れない子やなかなか進まないグループに助言する。 ★早く終わったグループは，他にも工夫できないか助言する。	★グループの友だち同士気持ちを伝えあってるか。
話し合い 10分	**グループで感想を話し合う。** ◆えーどう思う？おれが作った家丸太で一生懸命作ったんだよ。 ◆休み時間も粘土であそぼ。 ◆むずかしかったあ。 **他のグループの作品を見て回る。** ◆うわあ，すごい！ ◆かわいい，こっち。 ◆2グループのたこちゅう上手！	★全員ひと言は話すようにさせる。 ★話し合いが進まないグループに入り助言する。 	★進んで自分の感想を話しているか。 ★他のグループのよいところをしっかり見ているか。
まとめ	**話し合ったことや感想を発表する。** ◆みんな適当にやっているみたいだったけど，とても上手にできた。 ◆自分たちのケーキを作りながら	★思いを伝えあう大切さや協力して仕上げた喜びに気づかせる。	★他のグループを進んでほめているか。

5分	もっともっと早く完成させたいと思った。 ◆3グループはケーキのまわりにまで飾りをつけているのですごいなあ。	★どのグループも協力して頑張ったことを認めてほめる。	★チームワークの大切さに気づいているか。

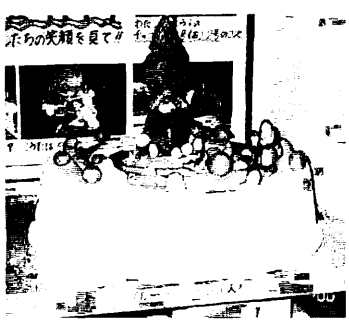
4　授業の考察

(1)　言葉を使わないでジェスチャーだけでケーキ作りが果たしてできるのだろうかと初めはとても不安だった。しかし，ほとんどの児童は，目で合図をしたり身ぶり手ぶりでいろいろな思いを伝え合ったりしながら，手を休めるのも惜しんで一生懸命取り組んでいた。

２０分の沈黙の後，合図の曲（ハッピーバースディトゥユー）が流れ「話してもいいよ」と言うと「はあーっ」という大きなため息が自然と教室にもれ，そのとたんそれぞれの口から言葉があふれ出した。みんな自分の思いを必死でグループの仲間に話していた。自分が作った作品の説明をしたり，「これ作るのに苦労したんだよ．」「むずかしかったー。」「楽しかった。」と感想を言い合ったりしていた。思いを伝え合う大切さや難しさを感じていた。

(2)　出来上がったケーキを見ると，一人一人がばらばらなものを作ってただ並べているグループもあれば、動物のグループ，ろうそくのグループ，生クリームの飾りのグループというように同じ種類のものを作っているグループもあった。１つのグループのみ自分たちの作品にやや不満足だったが，残りの７つのグループは，満足し成就感を味わっていた。

１番コンビネーションプレーの素晴らしかった６グループのケーキが完成までの様子をまとめてみた。



６グループのケーキ

６グループは自己表現の苦手な子が多く，自分の作った飾りをなかなかケーキの上に乗せようとしない。教師の何度かの支援後、やっとＡさんが丸い固まりを置くと次にＢさんが‥‥でもＡさんはＢさんの置いた位置が少し違うのでＢさんの了解を得てから寄せた。すごい心配り！

Ｃ君は立方体や正三角錐を器用な手つきで仕上げるが，乗せようとせずひたすら自分の世界で楽しんでいる。それを見たＤ君は「真ん中にのせたら？」と合図をし、ＯＫをもらうと早速ていねいな手つきで飾り付けた。その時のうれしそうなＣ君の笑顔！

その後調子よく飾り付けが進み，どの位置に置くとより見事な出来映えになるのかみんなで身振り手振りで相談しながら最後の仕上げをした。

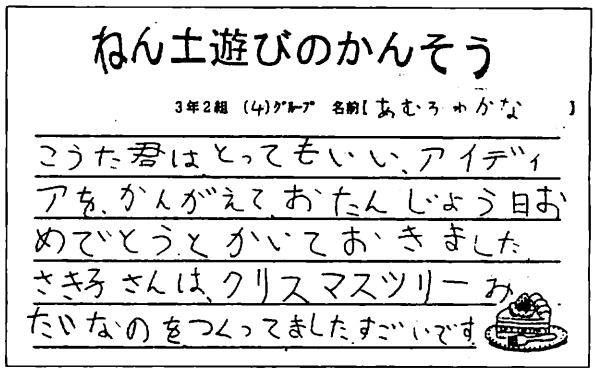
(3)　授業後のアンケートの結果からケーキ作りは 91 %の子がとても楽しかったと答え，楽しくないと答えた子はいなかった。

言葉を使わず気持ちを伝え合うのは 80 %近くの子ができたと答えているが，できないと答えた子も７～8人いる。児童のとっては初めての経験であり，少し難しかったようだ。

項　　目	とても	ふつう	あまり…ない	全然…ない
ケーキ作りは楽しかったですか	２９人（91%）	３人（９%）	０人（０%）	０人（0%）
気持ちを伝えることができたか	１４人（44%）	10人（31%）	７人（22%）	１人（3%）
相手の気持ちがわかりましたか	１３人（41%）	12人（38%）	５人（15%）	２人（6%）

(4) 仕上がった作品，アンケート，児童のつぶやきや感想などからこの題材はグループの人間関係を深めるのに適したエクササイズと言える。

(5) たった1ヶ月間ではあるが児童はグループ活動の工夫をすることによって，次への活動への意欲がだいぶ出てきた。またわずかではあるが自分の思いをグループの中で話せるようになり，グループ活動が楽しいと感じるようになってきた。


ねん土遊びのかんそう

3年2組 (4)グループ 名前[あむろ ゆかな]

こうた君はとってもいい、アイディアを、かんがえて、おたんじょう日おめでとうとかいておきました。さき子さんは、クリスマスツリーみたいなのをつくってました。すごいです。

質問 「あなたはグループの人ともっといろんなことをこれからもやりたいですか」

回　　答	グループ編成直後5/31	⇒	1ヶ月後7/1
いつもいっぱいやりたい	38%	⇒	56%
いろいろやってみたい	47%	⇒	28%
少しやってみたい	15%	⇒	16%
やりたくない	0%	⇒	0%

Ⅵ 研究の成果と今後の課題

1 成果

(1) 学級経営や人間関係など理論研究したことにより，今までの実践や人間関係づくりを見直す機会をもつことが出来た。

(2) グループの友達をほめよう大会で，児童は仲間のよさに気づきまた友達に認められたことを教師の予想以上に喜び，自信へとつながった。人間関係づくりに構成的グループエンカウンターは有効であることがわかった。

(3) アンケートの結果・グループノート・担任の話から，グループ活動は人間関係作りに有効であることが分かった。グループ活動によってグループの人間関係が良くなり，学級が少しずつまとまってきた。

(4) グループノートは，子供たちに習慣づけるまでたいへんだが，一人一人の本音や良さがたくさん書かれ，児童理解やグループの人間関係を知る上でとても貴重なものだとわかった。また本音を書くことで子供たちはストレスを発散する場にもなっていることがわかった。さらにノートの隅に何気なく描かれた絵から，児童の心の問題の発見ができた。

2 今後の課題

(1) 児童理解に努め，グループの友達とうまく関われない児童が集団にうまく関われるように個人的に支援していきたい。

(2) グループ活動の指導計画を実践し見直し，さらに工夫していきたい。

(3) 構成的グループエンカウンターの研究を続け，実践していきたい。

〈主な参考文献〉

坂本光男編・佐川愛子著	『班のつくりかた・班活動』	明治図書	1990年
松村謙・西村文男編著	『小学校学級経営の研究とその実践』	葵書房	1973年
押谷慶昭著	『生きる力と人間関係づくりに関する指導』	教育開発研究所	1999年
林佳代子他3名編著	『望ましい集団を育てる学級経営』	高崎市教育研究所	1997年
国分康孝監修	『エンカウンターで学級が変わる小学校編』	図書文化社	2000年